



自己調整力の必要性 考える子の育成に向けて

6月には運動会を実施いたしました。緊急事態宣言の再延長により、保護者の皆様に子どもたちの演技を観ていただくことができず、残念でありました。子どもたちは目標をもち、練習に取り組んだことにより体力の向上や努力の過程が報われ、素晴らしい演技を他学年の子どもたちに披露することができ、達成感を味わうことができたと思います。保護者の皆様には、運動会に向けて体調管理に努めたいいただき、本当にありがとうございました。

さて、6月14日(月)から18日(金)までの5日間に「みっきいすてっぷ」の「学びの地図」を活用して家庭学習を実施するにあたり、学習計画を立てさせて、目標をもって学習に臨ませるようにしました。学習後、「何を学び取れたのか」「学び方はどうであったか」などを振り返る活動をしました。

この活動に取り組んだ目的は、自己調整力を育成するためです。

自己調整力とは、学びたいことや自分の力に合った学習内容を選ぶ力、毎日学習時間を決めて計画通りにやり抜く力などです。子どもたちが社会人として働く時代は、国際化が進み、多様な課題に対応できる力が必要になってきます。子どもたちが成長する過程において困難なことに直面しても、自分自身で考えて課題を克服していくための意欲や手立てを生み出す資質や能力を向上させていくことが重要です。手立てとは、目標をもって計画を立て、学校で学んだ知識を「実生活」で活かしていくこうとするための具体的な方策です。この意欲や手立てを育てることが子どもたちの成長には欠かせないと考えます。そこで、「学びの地図」を活用することで子どもたちに自己調整力を付けさせる取組を行いました。

5・6年生の場合、「みきっ子 家庭学習ガイド」(三木市が作成している家庭学習の手引き)に示されている家庭学習の時間は、90分間となります。90分間の学習時間で下記のことを考えて学習します。

- ① どの学習をどれぐらいの時間で行うのかを自分で計画して取り組む。
- ② 意欲をもって取り組むためにどのような方法で学習に取り組むのか。

例えば、タブレット端末を活用してのタブレットドリルや動画視聴、資料の検索、読書など。

- ③ 「学習後、何を学ぶことができたか。学び方はどうであったか」を振り返る。

この3点を考えて計画を立てて学習することで自己調整力を育成することができると考えます。

今回の取組で子どもたちは下記のような振り返りをしていました。90分間の学習内容の一部を紹介いたします。

教科・学習内容	振り返りの内容
算数科 計算ドリル	今日はすらすら問題が解けた。最後の問題が分からなかった。そこで、今日のノートを見た。そうすれば分かったので、次、分からなかったらノートを見直すようにする。(6年生)
家庭科 調べ学習	じゃがいも料理の材料やイメージなどを絵に描いて分かりやすくした。マスいっぱい字を書いた。次はもう少し絵を増やしたり、どういうところに気を付けて料理をしたりするかなどを書く。(6年生)
算数科 計算ドリル	宿題が終わったら見直しをすることができました。見直しをして途中で間違ったところもあったので、見直しすることは大切だと思いました。(5年生)
国語科 漢字練習	今日の漢字は、ゆっくり書くという目標にした。時間も15分にしました。まっすぐきれいな字で書くことができたのでうれしかったです。次もゆっくりときれいに書きたいです。それに覚えるために漢字を何回も読むなど、工夫したいです。(5年生)

国語科 意見文を書く。	自分はどう感じて筆者と同じ意見なのかを考えて書いた。それに、自分の経験を入れて、より自分の思ったことが伝わるようにした。(5年生)
----------------	---

子どもたちの振り返りから学習内容の理解度や学び方について考えられていることが分かります。この取組に際して保護者の皆様にはご協力を賜り、心から感謝しております。2学期、3学期にも1週間取り組む予定で考えております。継続して取り組むことで、自己調整力が身につく、将来、困難なことに直面しても課題を克服して前向きに人生を送ることができる「とよちっ子」を育成できると考えています。本校の教育へのご理解ご協力をお願いいたします。

学校長 善村 龍昭